

Linux カスタマ サクセス スナップショット

デバイスソフトウェア開発用の「ソリューション」を提供している企業は数多くあります。

しかし、製品やサービスをばらばらに提供するのではなく、

デバイスソフトウェア最適化(DSO)を実現する企業は1社だけです。

ウィンドリバーは、アプリケーションに完全に対応した、Linuxプラットフォーム、

Eclipseベースのツール、専門的なサポート、グローバルなサービスを提供することにより、

自動車、ネットワーキング、モバイルハンドセット、コンシューマ、産業用、航空宇宙および

防衛産業(A&D)などの市場に向けたソリューションを提供。

爆発的に拡大するデバイス市場において、それぞれの業界をリードする革新的企業が、

Wind River Linuxプラットフォームをいかに活用し、最先端のポジションを保っているかをご紹介します。

ブルーソケット

(Bluesocket)

ワイヤレスソリューションとモビリティソリューションのリーディング企業であるブルーソケット社は、自社製(roll-your-own:RYO)Linuxソリューションを使用する際の問題を抱えていました。そこでブルーソケットの開発チームは、Wind River Platform for Network Equipment, Linux Editionに着目して、安定性と信頼性を備え、かつ差別化された製品の発売に成功。しかも、予定より短い期間と低い予算で実現させました。

「最初の1年間で完全に投資を回収し、さらにそれ以上の成果をあげることができました。ウィンドリバーは経済的に見て、3倍のリターンを実現します。当社開発業務のめざましい躍進をウィンドリバーは支援してくれました」

ブルーソケット社
チーフテクニカルエンジニア
トム・ゲビン氏



ヒューズテレマティクス

(HUGHES Telematics)

ヒューズテレマティクス社は、次世代テレマティクスアーキテクチャ向けの基盤を整備するためにウィンドリバーを選択しました。ヒューズのテレマティクスコントロールユニット(TCU)は、Wind River Linux、ハードウェアの仮想化を可能にするWind River Hypervisor、さらにWind River Professional Servicesを使ってドライバに情報を提供します。ウィンドリバーのソリューションは、開発コストとハードウェアコストを減らすとともに、システムの機能も向上させます。

「業界における深い専門的知識を活かしながら、自動車固有のエクステンションおよび仮想化技術と商用Linuxとを組み合わせることにより、将来の革新的な製品づくりへ。そんな成長への道をヒューズテレマティクスに提供できたのがウィンドリバーでした」

ヒューズテレマティクス社
社長
エリック・ゴールドマン氏



ハネウェルエアロスペース

(Honeywell Aerospace)

宇宙空間で良好に機能する強力かつ柔軟なCOTS (commercial off-the-shelf) 技術の創出を狙い、NASAはハネウェルエアロスペース社に注目しました。ハネウェルは、開発時間を短縮しコストを削減する一方で、NASAプロジェクトの厳しい要求を満たすために、Wind River Platform for Networking Equipment, Linux版を選択しました。

「ハネウェルは、ディペンダブルマルチプロセッサ(Dependable Multiprocessor)の開発でウィンドリバーと協力できることに満足しています。ディペンダブルマルチプロセッサ技術の使用により、特に将来の宇宙システムの開発時間短縮、コスト削減、リスク抑制の面で、長年にわたって利益が得られるものと期待しています」

ハネウェルディフェンスアンドスペース社
主席工学研究員
ジョン・R・サムソン・ジュニア博士



AMX

AMX社は、制御および自動化、スイッチング、分散オーディオ&ビデオ、技術管理など、広範な分野にわたるハードウェアソリューションとソフトウェアソリューションを提供しています。同社は、Wind River Platform for Consumer Devices, VxWorks版を数年間にわたり使用し、その性能に満足するとともに経費節減を実現。さらにAMXタッチパネル製品ラインすべてについて、自社製(roll-your-own:RYO)LinuxソリューションからWind River Linuxへ移行中です。

「当社ではROI分析を実施した結果、Wind River Linuxを使用すれば、今後2年間で最低100万ドルから200万ドルの経費を節減できると考えています。全社を通じて1つのツールセットに標準化することは、コスト削減と生産性の観点から非常に有効です」

AMX社
ファームウェアエンジニアリング部長
リック・ゲリング氏



Vehicle Infrastructure Integration Consortium (VIIC)

VIICは自動車製造8社で構成されるグループで、米国運輸省の後援により実現性評価を行っています。この評価は、車両-道路間および車両間の通信を支援するインフラストラクチャを全国的に展開する可能性を判断しようとするものです。車両用ハードウェアおよびソフトウェアの標準をテストするために、同コンソーシアムはWind River General Purpose Platform, Linux版を選択しました。

「ウインドリバーを選んだ理由は、当社が商用レベルで完全にサポートされたLinuxソフトウェアプラットフォームを提供しており、さらにハードウェアのサポートを提供することもできるからです。ウインドリバーの自動車用エンベデッドシステムに関する深い知識と、製品、サービス、サポートの幅広さと奥深さが、万全で低リスクのソリューションを提供してくれました」

VIICコンソーシアム
会長
デビッド・ヘンリー氏

エアバーナ (Airvana)

モバイルブロードバンドインフラストラクチャのリーディングプロバイダであるエアバーナ社は、IP対応の電気通信インフラストラクチャという新市場への参入を望んでいました。Wind River Platform for Network Equipment, Linux版を採用することで、同社はより多くの時間を他社製品との差別化に振り向けることに成功。開発のコストとリスクを減らし、強力な完全統合型COTSソリューションを開発し、収益回収までの時間を短縮しました。

「世界に散らばる当社開発チームの効率を最大限に向上させることにより、市場に迅速に対応しながら、プロジェクトコストを削減することも可能になります。ウインドリバーのEclipseベースの開発環境を使用して標準化を行えば、エンジニアは異なるプロジェクト間を容易に移動できるようになり、立ち上げ時間も最小限に抑えることができます」

エアバーナ社
エンジニアリング戦略および
アーキテクチャ担当副社長
フランク・チェン氏



ウインドリバーはスマートデバイス搭載ソフトウェアの最適化(DSO)をワールドワイドに提供するリーディングカンパニーです。企業がスマートデバイスに搭載するソフトウェアを、品質および信頼性のさらなる向上を実現しつつ、リーズナブルなコストで開発することを可能にし、早期にマーケットへ投入することを支援します。

WIND RIVER ウインドリバー株式会社

東京本社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー
TEL.03-5778-6001(代表) FAX.03-5778-6002

大阪営業所
〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-5-25 新大阪ドイビル
TEL.06-6100-5760(代表) FAX.06-6100-5761

E-mail:info-jp@windriver.com <http://www.windriver.co.jp>

登録商標:Wind River, Wind Riverロゴ、Tornado、VxWorksは、Wind River Systems, Inc.の登録商標または商標です。記載されているすべての名称は、各社の登録商標、商標またはサービスマークです。

■販売代理店